

# 生徒の主体性を引き出す ICT 活用

～効果的な資料活用による、思考力・判断力の育成～

東根市立第一中学校 矢 萩 健

## <研究の概要>

本研究では、中学校社会科の授業において、生徒の主体性を引き出し、より深い思考・判断と理解を促すための ICT 機器の活用について考察した。導入の場面で映像資料やパワーポイントを用いることで生徒に具体的なイメージをもたせたり、ICT 機器を用いた発表を行ったりすることで、生徒の学びにどのような変容があるかを検証した。

その結果、行ったこともない場所や見たこともないものに対する具体的なイメージができたことで、より生徒の理解を深め、深い思考を促すことができた。また、発表の場面で ICT 機器を用いたことで、その生徒が何を根拠に判断したのかが他の生徒に明確に伝わり、より資料に基づいた多面的・多角的な考察ができた。さらに、タブレットを介した生徒どうしの交流が増え、仲間と情報や疑問を共有しながら、主体的に学ぼうとする姿も見られた。

中学校社会科の授業において、映像資料を積極的に用いたり、ICT 機器を発表などの場面で活用することは、生徒の主体性を引き出し、より深い思考・判断を促す手立てとして有効であった。

## 1 研究テーマ

本学級（3 学年，男子 15 名，女子 17 名計 32 名）の生徒の実態としては、学校にタブレットが約 40 台導入されているという恵まれた環境もあり、3 年間の各教科の授業や日常生活での情報端末の使用を通して、インターネットでの検索やカメラ機能など、タブレットの基本的な機能の使い方についてはほとんどの生徒が習得している状況である。

一年次の研究では、ICT 機器を「生徒が情報を受信・収集・発信するための機器」と位置づけ、生徒の資料活用の技能を向上させ、関心・意欲を高めるところを目標とした。二年次となる今年度、3 年生の社会の授業では「公民」の学習が始まる。公民では、現代社会において解決の見られない問題や、白か黒かをはっきりさせるのが難しい課題が多くあり、地理・歴史以上に自分の考えをもち、自分の価値観に基づいて判断を下すという活動が多い。こういった分野の特性を踏まえ、今年度は、ICT 機器を使って効果的に資料を活用することで、より生徒の主体的な思考・判断を促すような学習活動を仕組んでいきたいと考え本テーマに設定した。

## 2 視点

### (1) ICT を活用した効果的な情報提示

ICT 機器を利用して図表や映像などの諸資料を提示することで、生徒の学習意欲を引き出し、学びを深められるようにする。教師からの情報提示だけでなく、生徒による効果的な情報提示にも活用する。

### (2) ICT を活用した対話的な学習

ICT 機器を用いた調べ学習や資料提示、発表の場面等での活用により、生徒どうしが情報交換しながら協働的に学んだり、他者の根拠に裏付けられた考えに触れることで、自身の考えをより深めたりする学習活動を設定する。

## 3 研究の方法と計画

### (1) 視点 1 について

中学校社会科においては、どの分野・単元においても資料を提示する場面が多い。例えば具体的な場面として、地理では、生徒たちが行ったことも見たこともない場所のことをイメージできるように、各地の様子分かる写真や動画を見せる、歴史では、

文献や絵巻物などの諸史料を提示し、そこから当時の様子について探る、公民では、主張の根拠や具体的な事例を示して、主張により説得力をもたせるなどの場面が挙げられる。このように、中学校社会科では、資料の提示の仕方や読み取り方が授業の大事なポイントになるため、年間を通してテレビ等の ICT 機器を積極的に活用していく。

## (2) 視点2について

ICTを活用した探求型学習の一例として以下のような学習活動を取り入れようと考えた。

### 地理的分野

- ・世界の諸地域、日本の諸地域についての学習で、世界の各州や日本の各地方の特色、各地域の課題とそれに対する解決策などについて調べてまとめ、ICT機器を用いてプレゼンテーションを行う。

### 歴史的分野

- ・国民の意見が大きく分かれたり、政府内で考え方が対立したりした事例をテーマとして取り上げ、必要な情報を収集してディベートを行うなどの学習活動を取り入れる。

### 公民的分野

- ・タブレットを使って過去の事例や統計などの諸資料を集め、情報交換しながら自分の考えをまとめる活動や、考えの根拠となる資料を、ICT機器を用いて提示しながら発表する活動などを取り入れる。

## 4 研究の実践

### (1) 実践1

#### ①実践の概要

##### ア 単元名

3年社会 歴史的分野

「世界の多極化と日本の成長」

本時の目標

高度経済成長がその後の日本の社会に与えた影響について、諸資料をもとに

考察し、まとめることができる。

### イ ICTの活用について

「高度経済成長による社会の変化を読み取ろう」という学習活動を行った。5枚の資料パネルから読み取った内容をもとに、自分たちでストーリーをつくり、それらを正しい順序に並べ替えさせた。その際、資料の注目したポイントに印をつけ、そのように考えた理由が明確に伝わるようにした。その後、自分たちのストーリーを書き込んだパネルをタブレットのカメラで撮影し、発表の際はその写真をパワーポイントのように順番にテレビに写しながら発表を行った。

### ②子供の学びの姿

発表の場面では、生徒たちが作ったパネルをテレビに写して発表させたことで、聞き手の生徒たちはテレビを見ながら集中して話を聞いていた。また、注目したポイントに印をつけたことで、各グループの思考の過程も読み取ることができ、さらにそこをズームで示して補足説明をすることで、より効果的に情報を共有することができた。

導入や発表でのこのような ICT 機器の活用により、集中力の続かない生徒も関心・意欲を高め、主体的に活動に参加する様子が見られた。



高度経済成長期には、「三種の神器」や「3C」とよばれる電化製品が普及し、人々の暮らしは豊かで便利なものになっていった。



東京オリンピック開催に向けて、新幹線や高速道路などの交通網の整備、都市の開発が進み、より便利で暮らしやすい社会が実現していった。

★アドバイス★  
新幹線以外に、このころ急速に整備されたものはないかな？

## (2) 実践2

### ①実践の概要

#### ア 单元名

3年社会 公民的分野

「国民として国の政治を考えよう」

～世論とマスメディア～

本時の目標

マスメディアは世論の影響にどのような影響を与えているのか、諸資料をもとに考察することができる。

#### イ ICTの活用について

導入の場面でパワーポイントを使用した。いずれもスポーツの試合結果について報じた2枚の新聞記事を比較し、事実の報じ方にどのような違いがあるかを考え、実は私たちの考え方や価値観は、マスメディアに大きな影響を受けていることに気づかせた。



### ②子供の学びの姿

テレビを用いて資料を提示したことで、授業の最初に全員が同じ方向を見て今日の課題に迫ろうという雰囲気が出ていた。また、なかなか意見が出ない場合は見出しの部分拡大して見せるなど、ポイントを明確に示すこともしやすかった。これにより、前向きに課題に取り組めない生徒や自分で気づくのが難しい生徒も、主体的に考えようとする様子が見られた。

## (3) 実践3

### ①実践概要

#### ア 单元名

3年社会 公民的分野

「国民として国の政治を考えよう」

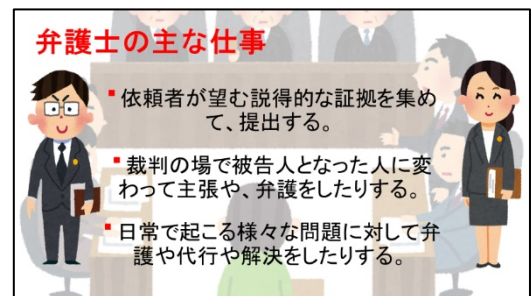
～私たちの生活と裁判～

### 本単元の目標

模擬裁判を通して、様々な証拠を基に、事件について多面的・多角的な視点から考察して判決を下し、その判断の根拠を説明することができる。

#### イ ICTの活用について

模擬裁判を行い、具体的な事例について有罪・無罪の判断を行った。その際、自分の感情だけでなく、明確な証拠に基づいて判断させるよう留意した。その判断の根拠を示す際、生徒が手元のタブレットの画面をApple TVで大型テレビに写し、証拠物のどこに注目したのか、何を根拠に判断したのかがより全体に伝わりやすいようにした。また、班ごとに①弁護士、②検察官、③裁判官、④被告人、⑤裁判員の5つの役割を割り当て、それぞれの仕事の内容や関連する権利、制度について調べた内容をパワーポイントにまとめ、発表を行った。



### ②子供の学びの姿

前時の復習に生徒が作成したパワーポイントを活用したことで、前時までに自分たちが学習した内容が振り返りやすく、授業がより生徒が主体となったものとなった。

発表の場面では、聞き手の生徒たちはテレビに写された資料を見ながら話を聞いており、発表者が「どんな判断をしたか」より、「なぜそう判断したのか」という部分に注目して意見を聞いていた。

また、同じグループ内で1～2台のタブレットを使って作業をしたことで、協働的に学ぶ展開が確保でき、グループ内での何気ないつぶやきや発見が課題解決の糸口になることも多かった。



## 5 結果と考察

### (1) 視点1について

一年次から継続的に活用している NHK for school のクリップや動画は、生徒に気づかせたいポイントや地域の特色、抱える課題などが短い時間でまとまっており、学習の導入として非常に有効であった。生徒は行ったことのない地域や見たことのないものについて具体的なイメージを持つことができ、単元の課題を十分に把握して学習に臨めた。また、日常的活用が簡単にでき、生徒の学習意欲や追及の態度の継続に有効であった。

生徒の発表の際に Apple TV とタブレットを使用したことで、教室内のどこからでもスムーズに資料を提示することができ、特に生徒が資料等を活用して発表を行うのに効果的であった。

### (2) 視点2について

自分の意見を述べる場面で Apple TV とタブレットを活用したことで、その生徒が何を根拠に判断したのかが他の生徒に明確に伝わり、より資料に基づいた多面的・

多角的な考察ができた。また、考えの根拠となる資料を提示したことで、言葉や文字だけで伝える発表よりも、聞き手の関心・意欲を高めることができた。

しかし、生徒の発表やグループでタブレットを使って学習する場面では、テレビやタブレットの画面を見ながら話したり聞いたりすることが多かった。ICT 機器はツールであり、対話する相手は目の前の人間であるという意識を持たなければならないと感じた。

### (3) 研究を終えての提言

2年間の実践の結果、授業に ICT 機器を取り入れることは、生徒の学力向上に大変有効なものであることが分かった。

一方で、私が授業で ICT 機器を活用するにあたり、最も不都合を感じたのは「効率」の問題である。中学校の授業においては、教師は毎時間異なる教室に移動する。また、他の教科の授業との兼ね合いもある。例えば、大型テレビやタブレット数台、授業用のパソコン等が各教室に備え付けられている状態であれば、教師は授業の際、必要なデータを持っていけば授業ができる。しかし、現状の環境では、10分間の動画を見せたい場合、授業の度に大型テレビとタブレットを持ち運び、接続しなければならない。Apple TV を使ったり、生徒にタブレットを使わせたりすれば、準備はさらに煩雑になる。効率的な授業を行うために、非効率的な準備をしなければならない。このような状況が、多くの教師が授業で ICT 機器を用いることに抵抗を感じる一因であろう。

授業における ICT 機器の効果的な活用は、授業のあり方を大きく変える。私自身、2年間の実践で多くのメリットと可能性を感じた。それゆえに、教師が ICT 機器をより効率的に使用できるような環境を早急に整えることを強く望み、2年間の研究を終えての提言としたい。